

2012年(平成24年)

1月26日

木曜日

夕刊



朝日新聞東京本社

発行所: 〒104-8011 東京都中央区
築地5-3-2 電話: 03-3545-0131
www.asahi.com

窓

論説委員会から

ワインと原発

フランスのロワール地方は、世界的なワインの産地だ。だが、観光地のロワール川沿いには、ブドウ畑だけでなく、巨大な原発もある。

「皆さんと連帯したい。同時に、福島の実験から何を学ぶか、知りたいのです」

原発4基を抱える古都シノンのイブ・ドージュ助役は真剣だった。シノン市など原発や再処理工場などを抱えるフランスの自治体代表団が、19日まで3日間、東日本の被災地を訪れた。福島県飯館村や南相馬市をまわり、仮設住宅も訪問した。

フランスの原発は58基で、日本より多い。大量の冷却水が必要なので大きな河川の流域、つまりワイン産

地の周辺に造られているのだ。

一行の顔色が変わったのは、放射能汚染で今は使われていない飯館村役場を訪ねたときだ。役場前の広場に設置してある空間線量計は、自衛隊が除染したこともあって、毎時1.05シーベルトを示していた。

ところが、数分先の溝に線量計を置いたら、警戒音が鳴り始めた。みるみる数値が上がり、6シーベルトに達した。

「いくら除染しても、事故の前に戻ることはできないのです」。NPOオンザロードの伊知地亮さんの説明に、一行は深くうなずいた。

原発事故の教訓をともに学ぶ努力は、始まったばかりだ。(水野孝昭)